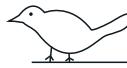


休日、楽しんでいますか？【特集】みんなの休日。

社会福祉法人そよかぜの機関紙

第122号

発行2015.7.19
年4回発行



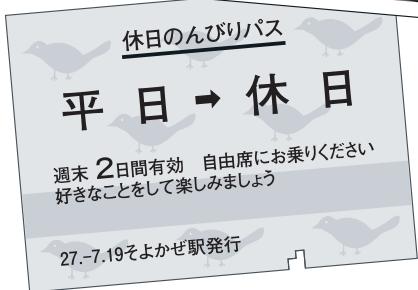
社会福祉法人そよかぜ
羽村市栄町3-3-1
042-578-0855
fax.042-578-0466

そよかぜだより

みんなの休日

「**特集**」

平日は一生懸命働いているみんな、
休日はどうしているんだろう。
気になつたので、聞いてみました。
けつこう楽しそうなんですね！
休日、楽しんでいますか？



先日、電車に乗っていると障害のある方が乗ってきました。電車が動き出すと体を動かしながら流れる風景を見て動く電車の空間に酔いしれ、満足気な表情になっていました。彼の行動はまわりの人から見ると少々浮いた存在であるようでしたが、彼が楽しみにしていた電車に身を任せている姿は幸せそうでした。満足感あふれる彼の顔を見ていると移動手段である電車に乗っている時間は彼にとって、とても大切な時間であることに気づかされました。

今ではあまりないと思いますが、休日などに障害のある方が外に出ることは、さまざま面で見えない壁がありました。例えば車いすの障害者がボランティアの方と美味しいレストランで食事をしようと訪れた際、お店の人から車いすであることを理由に入店を断られることもありました。障害があるということで楽しみにしていた外出に暗雲が立ち込めのような出来事は本当に残念な気持ちになります。それから社会も少しずつバリアフリーの整備がされ、外出でのマ

ンパワーとしてガイドヘルパーといったソフト面の整備もすすめられてきました。

障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現を目的に平成25年6月、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)が制定され、来年4月1日より施行されることになっています。

作業所でも仕事ばかりではなく、時には仕事を離れて行事など様々な活動も行っています。そこでは、行事を楽しみ、お互いを気遣ったり、助け合ったりと仕事とは違った一面を垣間見ることが出来ます。

余暇や休日を楽しむことも、それぞれが興味や趣味などが違っていたとしても、誰もが裏を返せば仕事へのやりがいにもつながっているともいえます。今回の特集では、福祉作業所ひばり園利用者の休日の過ごし方を紹介します。

[特集]

みんなの休日

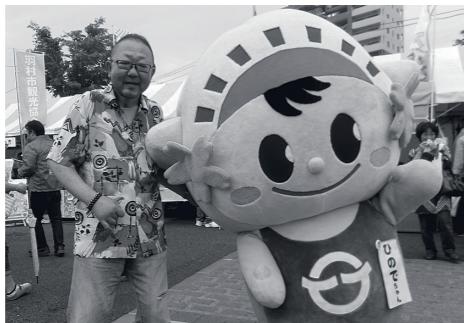
一緒に働く仲間や友人、一人で出かける人もいれば、福祉サービスを使って楽しくすごしている人。楽しい休日のこと、笑顔の秘密たくさんおしえてもらいました。



ぼくの休日

平井さんの場合

ぼくは、フレンズともだに入居して約10ヶ月になります。週末(土日休日)は、午前中にお風呂、部屋などを掃除して、なるべく午後に、二階の入居男性とJR五日市線、その他、100円ショップなどへ自転車で一緒に行ったりしています。帰宅時間は、16時40分前後になり、次週の土日休日は、自宅へ帰ったりして、雑草の手入れを少ししています。近所のいとこ少し時間あるときは、最近あった話をしています。ぼくの話はここまでです。



休日の楽しみは……

指田さんの場合

私は休日になると、ひばり園の仲間や友人たちとの外出を楽しんでいます。最近行った中で印象に残っているのは、柴又で寅さんに会ったことと、帝釈天です(写真右上、右下)。また、群馬県桐生市に、肉焼

きそばを食べに行きました。とてもとても美味しかった(写真左上)。

自分の車で行動するときもあれば、ひばり園の仲間や友人と電車で出かけることもあります。今週末はどこへ行こうかな。



想い出の休日～東池袋 大勝軒とぼく～

松村さんの場合

ぼくが初めて大勝軒に行ったのは2008年6月7日。新しい大勝軒が復活した時だった。初めて食べたつけ麺はちょっと甘酸っぱいような不思議な味だった。二回目か三回目に食べた時に舌が慣れて、大勝軒の味というものがわかつてきた。そこからいろいろなつけ麺をある程度食べたりして、僕としては、いちばんは大勝軒(東池袋)、次が中華蕎麦とみ田(千葉県松戸市)だと感じた。

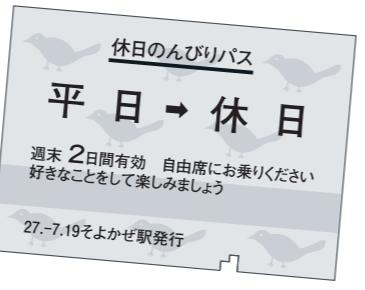
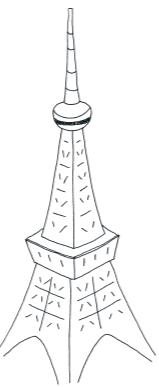
大勝軒はそれから何回か行った。今年

の4月1日、山岸さんが病気で亡くなった。その後、一回食べに行った。美味しかったね、本当に。また行きたい。たくさんの弟子も作って、全国にいるし、あの味はやっぱり……なんて言つたらいいかな……山岸さんという人は初代大勝軒マスターとして素晴らしい人だった。僕はまだ山岸さんが作った本当の味は知らない。二代目の人が作った味しか知らない。一度でも食べたいと何度も思ったが、知らなかった。

(ここからは涙で筆が進みませんでした……)



初めて食べた想い出のつけ麺(特製もりそば)。



はむら青年学級で陶芸をしました

橋本さんの場合

「陶芸楽しかったです。形を作るところと、名前を書くところが楽しかったです」

はむら青年学級ふれんどでは、知的・身体に障害のある青年たち(18歳以上)が、生涯学習に関するさまざまな活動(陶芸教室等)



の創作活動、遠足、リトミック、フラワー・アレンジ等)を行っています。主な活動は毎月1回日曜日に行っています。

●問い合わせ先: 羽村市生涯学習センター ゆとろぎ ☎ 042-570-0707



いかないよ! 中目黒

坂田さんの場合

私には、お給料や年金が入ったら必ず行く場所がある。それは〈中目黒〉。個人的にプライベートで行っている。ひばり園の仲間が行けないとき、一人で行ったら、知らない男の人に声をかけられたんだけど、24karatsのお店が工事していて、違うところに移っていて、場所を教えてもらった。前はジャージを10本くらい買ったりしていたが、今は買っていない。半分くらい、ひばり園の仲間と一緒に行っている。あとは、個人的にゴールデンウィークは東京駅に行った。TAKAHIRO(EXILE)がいる場所だから。この頃あちこちに一人で行っている。東京タワーにはひばり園の仲間がついてくれた。今は、好きな人(TAKAHIROと長谷川博己)と共に演るために芸能人を目指している。

移動支援について

移動支援は、地域生活支援事業として外出が困難な障害者(児)が充実した日常生活を営むことができるようヘルパーを派遣し、社会参加等に必要な外出時の支援が行われます。具体的には、役所や金融機関での手続きや公共料金の支払い、冠婚葬祭などといった日常生活で必要な外出をはじめ、散歩や娯楽施設への移動、買い物の同行などといった社会生活や余暇活動を充実させるための外出といった目的で利用されています。

※市町村が実施主体の事業であるため、自治体により多少異なるところもあります。



スポレクで、金メダルチョコをもらえて満面の笑み。

平成26年度事業実績報告概要

堀内政樹 社会福祉法人そよかぜ施設長

平 成12年に実施された社会福祉基礎構造改革から15年が過ぎ、羽村市及び近隣地域でも障害者福祉サービス事業所が就労・居住・相談など地域のニーズに合わせて整備されてきました。また、経営主体も株式会社等の営利企業など多様な事業者の参入も進み、サービス利用者の選択肢も広がっています。そうした中、そよかぜも法人創設以来、地域の障害者福祉ニーズに即した事業展開に努めてきましたが、本年度は、このような事業環境及び利用者ニーズの変化を踏まえて、グループホームほほえみ館とつくしの家宿泊訓練事業の2事業を終了し、1月1日付で指定特定相談支援事業所ゆいを新設しました。その他の事業につきましては、従来通り実施しました。以下に、各事業の実施概況を報告します。

① 福祉作業所ひばり園の就労移行支援(定員8名)では、利用者6名が就職しました(就職先:一般企業2名、特例子会社2名、就労継続支援A型事業所2名)。

実施事業一覧

社会福祉事業

- ① 福祉作業所ひばり園(就労移行支援・就労継続支援B型)
- ② 福祉作業所スマイル工房(就労継続支援B型)
- ③ グループホームほほえみ館(共同生活援助)
- ④ 指定特定相談支援事業所ゆい

公益事業

- ⑤ 羽村市心身障害者宿泊訓練施設つくしの家
- ⑥ 羽村市障害者就労支援センター エール

収益事業

- ⑦ 資源回収

就労継続支援B型(定員70名)では、本園、出張所(リサイクルショップくれよん)とともに、協力企業や他施設との協働・連携も含め活発な授産活動ができました。

② 福祉作業所スマイル工房(定員20名)では、施設移転計画の具体化に向けた準備・調整等を行いました(次年度継続)。パン・クッキーの製造販売や室内軽作業など活発な授産活動ができました。

③ グループホームほほえみ館及び⑤宿泊訓練施設つくしの家は、利用者及び関係する皆様のご理解とご協力により無事事業終了することができました。

④ 新規事業のゆいは、試行錯誤ながらも着実な運営ができました。

⑥ エールは、利用登録者人数が100名を超え、引き続き相談ニーズは増加しています。本年度の新規就職者は8名でした。

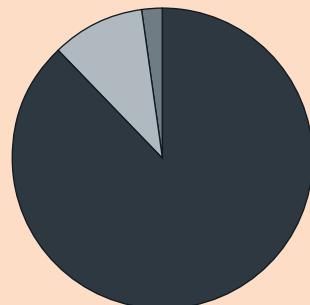
⑦ 資源回収事業は、市民、地元企業等のご協力により、前年度並みの実績が確保できました。施設外支援の場として、ひばり園利用者支援にも貢献できました。

平成26年度 社会福祉法人そよかぜ決算(資金収支)結果

【事業別支出内訳】

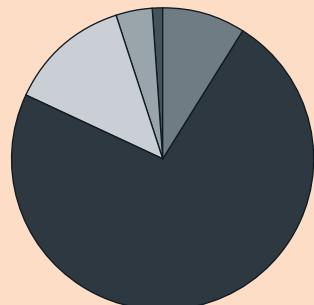
法人総支出額 ¥203,192,936
(法人総支出額は内部取引調整後)

社会福祉事業	¥209,390,664	88%
公益事業	¥22,708,412	10%
収益事業	¥4,412,710	2%



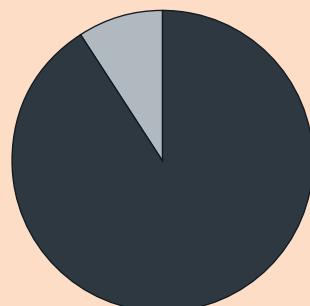
【社会福祉事業支出内訳】

法人本部	¥18,728,397	9%
福祉作業所ひばり園	¥153,933,377	73%
福祉作業所スマイル工房	¥26,808,129	13%
グループホームほほえみ館	¥26,808,129	4%
指定特定相談支援事業所ゆい	¥1,103,631	1%



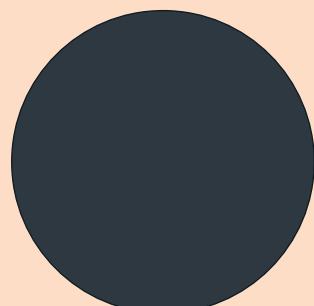
【公益事業支出内訳】

就労支援センター エール	¥20,328,794	91%
宿泊訓練施設つくしの家	¥2,104,218	9%



【収益事業支出内訳】

資源回収	¥4,412,710	100%
------	------------	------





【連載】

そよかぜのご近所さん

ここ羽村市近隣地域には、たくさんの福祉施設があります。それぞれの施設では、様々な特色を活かした取り組みを行っています。意外と知らないことも多い他の施設の様子、見せてもらいました。



〈第2回〉

木馬工房

(八王子市元本郷町)

昭和60年に障害者が通う施設として開所した木馬工房。知的、身体に障害のある利用者さん約20人が作業をしています。作業場は、印刷部門(名刺、会報、小冊子等のレイアウト、版下製作)、木工部門(キーホルダーや簡単な家具製作)、ガラス部門(トンボ玉、ガラスフュージングを使用したアクセサリー製作等)の三部門に分かれています。そこで作られた製品は、同じ建物内にある店舗「木のっぴ」で販売されています。日々作業に取り組む他、隣接のギャラリー木馬を利用して個人の才能を活かしたアート活動にも力を入れています。「仕事は楽しくね」と所長の相良さん。楽しそうに作業する利用者さんの表情が印象的でした。

●7/18~27にセレオ八王子で行われる販売会に出店します。

特定非営利活動法人 木馬 木馬工房

東京都八王子市元本郷町3-17-13

☎042-624-3340

木馬工房の店 木のっぴ

営業時間：月～金 10:00～16:30

※隣接のギャラリー木馬は、障害者団体や手帳をお持ちの方に料金優遇サービスがありますので、ご相談ください。



1 電熱ペンを使って木片に絵を描いている。その後、色鉛筆を使って色づけをする。とても楽しそうな表情が印象的。
 2 様々な色のガラス棒をバーナーで溶かしながら巻き取って、トンボ玉を作っていく。
 3 間仕切り箱になる部品に、丁寧に紙やすりをかけている。
 4 木工品やガラス製品など、様々な商品が所狭しと並べられている、木のっぴの店内。
 5 広々とした木工部門の作業スペース。
 6 いろんな色が重なり合った、芸術品のトンボ玉。そのトンボ玉製品に値札を付けている。
 7 鳥や犬などのかわいらしい動物モチーフの木製キーホルダー、スプーン・フォークなども。
 8 ギャラリー木馬の展示室。
 9 木馬工房の外観。入口までは休憩スペースや、たくさんのハーブの鉢植えが置いてある。ガラス製品の端材を利用したタイルアートもそこかしこに。

私たちにできること

ニュースなどで施設職員による利用者への虐待や人権侵害に関する報道が続いていることに心が痛みます。これらの事件は同じ障害者福祉に携わるものとして、決してあってはいけないことであり真摯に受け止めなければいけません。一方、虐待や人権侵害など取り沙汰される度に、再発防止の検討がされますが、その後も同じようなことが繰り返されてしまうことはどこか抜本的な問題の見

直しに至っていないのではないかと感じています。

今回の事件に限らず、過去にも知的障害者の入所施設において虐待等の問題が取り沙汰されました。虐待の原因の一つとしては、重度の知的障害は地域で受け入れられる環境もなく、住み慣れた地域から遠く離れた場所に施設が造られ、地域の方の目に触れられないような閉鎖的な環境であったことでした。

コラム「福祉の時をつかむ」

本来であれば、安らげる生活の場が虐待等の深刻な問題が常態化していました。このことが世間の明るみに出たきっかけは、働いていた職員が問題を訴えたことから端を発しました。このようなことからも虐待や人権侵害に陥らないためには施設の内部だけでなく外からの視点も大切です。広報活動が担う役割は風通しのよい施設を目指すための手立ての一つでもあります。

そよかぜホームページ <http://soyokaze-hamura.com>

各事業所からのお知らせ



福祉作業所ひばり園

今年度に入ってから、作業以外の様々な活動や、地域行事への参加と充実した日々を過ごしています。栄小学校が毎年行っている街路升の花植え活動の一部をひばり園が行うことになりました。草むしりをして土を耕し、花を植えました。毎日の水やりが日課となっています。その他、福生警察署の方にお越しいただき、交通安全教室をひばり園食堂にて開催しました。DVDを見ながら交通ルールを再度確認し、車と人が衝突する衝撃的な場面を見ることができ、利用者さんも息をのんでいました。また別の日には富

士見公園にて行われたバスジャック訓練の見学に行きました。物々しい雰囲気に、いつもは賑やかなひばり園の仲間もおしゃべりをせず緊張した面持ちで見学していました。訓練後は警察犬と集合写真を撮り、緊張していたみんなの表情が笑顔になりました。

リサイクルショップくれよん

店内ではTシャツ均一セールを行っています。暑い夏には何枚あっても足らないTシャツ! 多数取り揃えています。ズボン、スカートの半額セールも合わせて行っています。今年度に入ってくれよんを利用する仲間も増えて、よりいっそう明るくにぎやかな日々を送っています。※8/8(土)～16(日)まで夏季休業になります。

福祉作業所スマイル工房

夏季限定メニューのカレーパン・ピロシキの販売を始めました。新商品の3色パン、オレンジピールパンもご好評をいただいているいます。〈第40回はむら夏まつり〉の

模擬店の出店を予定しています。今年もジャンボフランクと飲み物の販売をします。出店日程は7/25日(土)、26日(日)です。皆様のお越しをお待ちしています。



障害者就労支援センター エール

「エール」は、羽村市より社会福祉法人そよかぜに委託された障害者就労支援事業です。羽村市在住の障害のある方を対象に、就職を希望している方や働いている方等からの相談を受け、支援を行っています。

利用時間：月曜日～金曜日、午前9時～午後5時。今年度の第一土曜日開所は、8/1、9/5、10/3、11/7、12/5、2/6、3/5です。※ご相談には予約をお願いします。

資源回収のお問合せは「そよかぜ」へ。

編集後記

ワークライフバランス(仕事と生活の調和)、近頃この言葉をよく耳にするようになりました。心身の健康を維持し、社会人としていい働きをするためにも重要だと思います。そんな私は、趣味の山登りに出かける日もあれば、住んでいる地域のボランティア活動、家族や友人たちとすごすなどなど。たまに疲労困憊で一日中自宅でのんびりすごす日もありますが……。なにはともあれ、ひばり園のみんなのよう、毎日を笑顔すごす、その一日一日が幸せな人生なのかなと思う、今日この頃です。

各事業所の連絡先



社会福祉法人そよかぜ事務局

☎ 042-578-0855

福祉作業所ひばり園

☎ 042-555-5512

福祉作業所スマイル工房

☎ 042-578-2723

リサイクルショップくれよん

☎ 042-578-2575

羽村市障害者就労支援センター エール

☎ 042-570-1233

指定特定相談支援事業所ゆい

☎ 042-555-5512